

日本慢性期医療協会 定例記者会見

日時：令和元年10月10日16:30～

場所：日本慢性期医療協会

1. 介護老人保健施設の運営状況に関するアンケート結果について
2. 日本長期急性期病床(LTAC)研究会の発展的解消について

日本長期急性期病床(LTAC)研究会は、2013年に日本慢性期医療協会として療養病床だけでなく、積極的に地域急性期機能の向上のため、アメリカのLTACを参考にした研究会として作られた。

その地道な活動の成果から、2014年に地域包括ケア病棟が厚労省によって新設された。

そして2014年5月、日慢協から地域包括ケア
病棟協会が誕生したが、今や有意義な協会と
して確立し、一般社団法人として独立した。

地域包括ケア病棟の新設により、
日本長期急性期病床(LTAC)研究会の
大きな使命は成し遂げられたが、
地域急性期機能を持つ地域包括ケア病棟協会を
今後も支援してゆきたい。

今現在は地域包括ケア病棟は急性期と言われる
病院の7対1病棟からの患者の院内転棟が
主体であることは大変残念である。

日本慢性期医療協会としては、もはや11年前に日本療養病床協会ではなくなっている。名実ともに地域多機能病院として地域急性期機能、慢性期救急機能、リハビリ集中機能や障害者病棟、慢性期治療病棟、介護医療院等の機能を充実させてきている。

日本慢性期医療協会の会員病院の多くは
地域で多機能な医療介護複合体として、
地域で主にPost acute機能を担っている。

日本長期急性期病床(LTAC)研究会のLTACは、
Long Term Acute Careの略であり、
アメリカではSTACからの治療継続や地域急性期
機能を果たしていることを参考にしてきた。

しかし日本ではまだ十分に適切な病病連携が行われていたとは言い難い。日本で適切な病病連携が行われれば、医療費の効率化や患者の早期日常復帰に資するものであると考えている。

そこでこの度、日本長期急性期病床(LTAC)研究会は、病病連携強化のために「地域病病連携推進機構」として脱皮をすることとした。

すでに役員会に諮って、大多数の賛成を
いただいている。

会長には、今まで通り、上西紀夫先生に
お願いします。

地域で高度急性期病院と地域多機能病院との適切な病病連携が盛んに行われれば、治療費の効率化やリハビリテーションの早期充実などにより、入院日数の短縮化や患者の在宅復帰を強力に推し進めることができると考えている。

良質な慢性期医療がなければ
日本の医療は成り立たない